

第1章 調査の概要

1. 調査目的

吹田市民の市政やまちづくりに関する意見や要望等を把握し、今後の施策や事業を検討するとともに、市政運営の基礎資料とする。

2. 調査項目

- ①回答者の属性について
- ②回答者の居住地域について
- ③余暇活動などについて
- ④市政情報やインターネットを活用した情報提供について
- ⑤医療について
- ⑥障がい者について
- ⑦吹田市のさまざまな取組や市政運営について
- ⑧市政や市のまちづくりへの意見

3. 調査対象

- ①調査地域 吹田市全域
- ②母集団 平成30年（2018年）6月30日現在、18歳以上85歳未満の吹田市在住者
- ③標本数 2,000名
- ④抽出方法 層化系統無作為抽出法

4. 調査期間

平成30年（2018年）7月28日（金）～8月24日（金）

5. 調査方法

郵送調査法（お礼兼督促1回、無記名方式）

6. 回収結果

今回調査の有効回答数は1,165件で、有効回収率は58.7%となった。

表 1.6.1 回収結果

	件数 (件)	比率 (%)	備考
A 調査票発送数	2,000	-	
B 調査不能 (補充)	11	0.6	※調査不能(補充)率=B/A
【尋ね当たらず等】	11	-	予備標本より充当
C 調査不能 (非補充)	16	0.8	※調査不能(非補充)率=C/A
【長期不在・転出】	0	-	
【拒否：理由不明】	15	-	
【拒否：病気・高齢等】	1	-	
D 調査票到達数 (調査対象者数)	1,984	99.2	D = A - C
E 有効回収票	1,165	58.7	※有効回収率=E/D
F 未回収数	819	41.3	F = D - E

7. 信頼区間

本調査では、標本調査（無作為抽出）であることから、標本誤差が生じることがある。調査結果の誤差は、次式で統計学的に得られる。

$$\text{標本誤差} = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(100-P)}{n}}$$

N = 296,019
 《母集団=吹田市の18~85歳人口》
 n = 1,165 《有効回答者数》
 P = 回答の比率 (%)

今回調査の標本誤差は、以下のとおりである。

表 1.7.1 今回調査の標本誤差

回答の比率	90%	80%	70%	60%	50%
	10%	20%	30%	40%	
誤差	±1.72	±2.29	±2.63	±2.81	±2.87

(この表の計算式の信頼度は95%である)

※表 1.7.1 の見方：ある設問で、全体の回答が『80%』であった場合、80%を中心に±2.29、つまり、真の値は『77.71%~82.29%』の間にあると推定してよいが、その推定が正しい確率は95%である。

8. 報告書の見方

- 比率は全て、各設問の不明・無回答を含む集計対象者数（副問では当該設問回答対象者数）に対する百分率（%）を表している。1人の対象者に2つ以上の回答を求める設問（複数回答設問）では、百分率（%）の合計は、100.0%を超える場合がある。
- 百分率（%）は小数第2位を四捨五入し、小数第1位までを表示した。1つだけ回答を求める設問（単数回答設問）では、四捨五入の関係上各選択肢の百分率（%）の合計が100.0%にならない場合がある。
- 2つの選択肢を集約した場合（「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合計した『満足』など）は、該当選択肢の回答数の合計から割合を算出しているため、グラフに示した選択肢ごとに算出した割合の合計と一致しない場合がある。
- 図表中の「N」は集計対象者数を示し、各選択肢の回答比率は「N」を集計母数として算出した。
- クロス集計による分析では、「N」が10未満の項目については、全体結果と比率に大きな差がある選択肢があっても、本文中ではふれていない。
- 図表中の次の表示は、複数回答設問を示す。
 - ・MA% (Multiple Answer) : 選択肢の中からあてはまるものを全て選択する設問
 - ・3LA% (3 Limited Answer) : 選択肢の中からあてはまるものを3つ以内で選択する設問
- 本文や図表中の選択肢表記は、語句を簡略化している場合がある。
- 問15（地域の環境についての満足度・重要度）、問46（市政の満足度・重要度）などの評価項目では、評価を要約的に示すため、回答数に得点を与え、平均評価点を算出（※算出方法についてはそれぞれのページに示す）している。

第2章 回答者の基本属性

1. 居住地域、性別、年齢

(1) 居住地域 (問1)

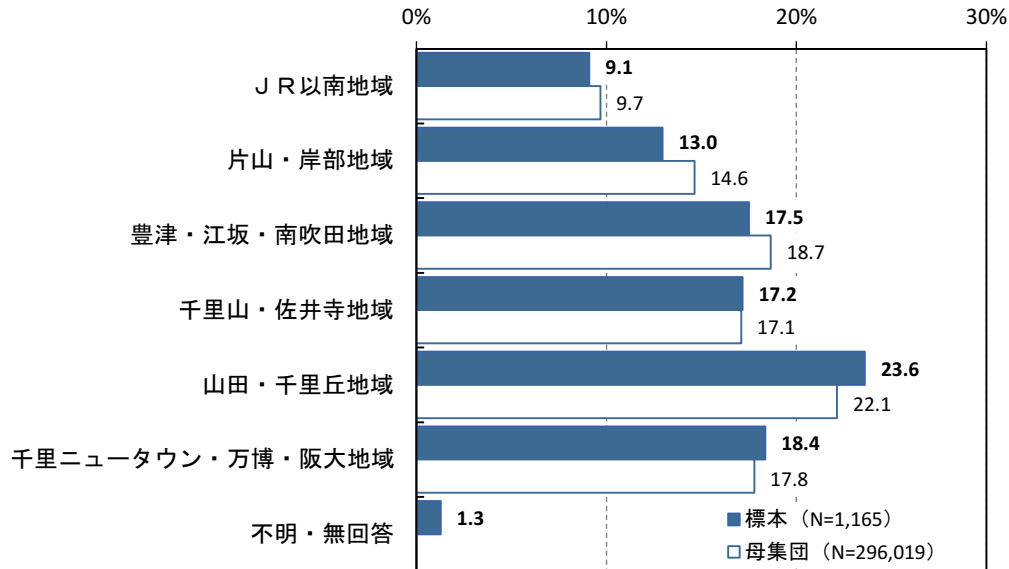


図 2.1.1 居住地域

○回答者の居住地域 (図2.1.1) は、「山田・千里丘地域」が最も多く23.6%、次いで、「千里ニュータウン・万博・阪大地域」が18.4%、「豊津・江坂・南吹田地域」が17.5%となっている。

○母集団と比較しても、両者の間に大きな差はみられない。

(2) 性別 (問3)

表 2.1.1 居住地域別 性別

	母集団			標本					
	人口 (人)	女性	男性	N (人)	女性	男性	その他	無不明答・	
全体	296,019	52.2	47.8	1,165	54.8	44.6	0.2	0.4	
居住地域別	JR以南	28,672	51.8	48.2	106	52.8	46.2	0.0	0.9
	片山・岸部	43,323	51.5	48.5	151	51.7	48.3	0.0	0.0
	豊津・江坂・南吹田	55,224	49.9	50.1	204	56.4	42.6	0.5	0.5
	千里山・佐井寺	50,617	52.3	47.7	200	57.5	42.5	0.0	0.0
	山田・千里丘	65,538	52.5	47.5	275	53.8	45.5	0.4	0.4
	千里NT・万博・阪大	52,645	54.9	45.1	214	55.6	44.4	0.0	0.0
	不明・無回答	-	-	-	15	46.7	40.0	0.0	13.3

○回答者の性別 (表2.1.1) は、「女性」が54.8%、「男性」が44.6%となっている。

○居住地域別にみると、全地域で「女性」の方が多くなっている。

○母集団と比較すると、豊津・江坂・南吹田地域と千里山・佐井寺地域では標本の方が「女性」の割合が高く、母集団との差が大きくなっている。

(3) 年齢 (問2)

表 2.1.2 性別・居住地域別 年齢

(単位：%)

		N (人)	年齢						無不明 回答・
			30 歳未 満	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以 上	
標本		1,165	10.1	13.5	19.8	17.5	16.5	21.8	0.8
母集団		296,019	15.8	16.1	20.7	15.7	13.9	17.7	-
性別	女性	638	9.1	14.3	20.1	18.3	15.2	22.4	0.6
	男性	520	11.5	12.5	19.8	16.7	17.9	21.2	0.4
	その他	2	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	不明・無回答	5	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	60.0
居住 地域 別	J R以南	106	11.3	8.5	17.0	16.0	17.0	28.3	1.9
	片山・岸部	151	9.3	12.6	16.6	22.5	18.5	20.5	0.0
	豊津・江坂・南吹田	204	13.7	16.7	21.1	16.2	14.7	17.6	0.0
	千里山・佐井寺	200	10.0	15.0	22.5	18.0	16.0	18.5	0.0
	山田・千里丘	275	8.7	13.8	21.8	16.4	18.2	20.7	0.4
	千里NT・万博・阪大	214	8.9	12.1	18.7	17.8	15.9	26.6	0.0
	不明・無回答	15	6.7	6.7	0.0	6.7	0.0	40.0	40.0

※網掛け■は最も多いもの

- 回答者の年齢 (表2.1.2) は、「70歳以上」が最も多く21.8%、次いで、「40歳代」が19.8%、「50歳代」が17.5%となっている。
- 性別にみると、女性・男性ともに「70歳以上」が最も多く、次いで、「40歳代」となっている。
- 居住地域別にみると、J R以南地域と千里ニュータウン・万博・阪大地域では「70歳以上」が、片山・岸部地域では「50歳代」が、豊津・江坂・南吹田地域と千里山・佐井寺地域、山田・千里丘地域では「40歳代」が最も多くなっている。
- 母集団と比較すると、「40歳代」までは標本の割合の方が低いが、「50歳代」以上では標本の方が高くなっている。

2. 職業、主な通勤・通学地

(1) 主な職業 (問4)

表 2.2.1 性別・年齢別・居住地域別 主な職業

(単位：%)

		N (人)	* 常時 雇用者	* 臨時 雇用者	派遣 社員	内 職	自 自 営業 業主	家 族 従 業 者	重 経 営 者 、 役 員	学 生	主 専 業 主 婦 ・ 主 夫	無 職 *	無 不 回 答 ・
全 体		1,165	32.0	17.4	1.8	0.1	4.5	0.9	2.7	3.7	17.3	18.2	1.3
性 別	女性	638	20.2	24.9	2.2	0.2	2.4	0.9	1.6	2.4	31.0	13.0	1.3
	男性	520	46.7	8.1	1.2	0.0	7.3	0.6	4.2	5.4	0.8	24.8	1.0
	その他	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	不明・無回答	5	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0
年 齢 別	30歳未満	118	36.4	12.7	1.7	0.0	0.8	0.0	0.0	36.4	4.2	6.8	0.8
	30歳代	157	58.6	9.6	5.1	0.0	2.5	0.0	1.3	0.0	18.5	3.8	0.6
	40歳代	231	48.9	21.6	2.2	0.0	4.3	2.2	2.6	0.0	12.6	5.2	0.4
	50歳代	204	45.6	27.9	1.0	0.5	2.5	1.5	4.4	0.0	11.8	4.4	0.5
	60歳代	192	12.5	22.9	1.0	0.0	9.9	0.0	5.7	0.0	21.4	26.0	0.5
	70歳以上	254	2.8	8.3	0.4	0.0	5.5	0.8	1.6	0.0	28.7	49.6	2.4
	不明・無回答	9	11.1	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	11.1	44.4
居 住 地 域 別	J R以南	106	29.2	16.0	2.8	0.0	6.6	0.0	0.9	2.8	14.2	24.5	2.8
	片山・岸部	151	37.1	20.5	2.6	0.0	2.6	0.7	1.3	1.3	15.2	17.9	0.7
	豊津・江坂・南吹田	204	40.7	15.7	1.0	0.0	5.9	1.0	3.9	2.0	15.7	13.2	1.0
	千里山・佐井寺	200	31.0	15.5	1.0	0.5	5.5	0.0	5.5	6.5	20.0	13.5	1.0
	山田・千里丘	275	29.1	20.4	2.2	0.0	3.3	1.1	2.2	2.9	18.9	19.6	0.4
	千里NT・万博・阪大	214	27.6	16.4	1.9	0.0	4.7	1.9	1.9	5.6	18.2	21.5	0.5
	不明・無回答	15	13.3	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	6.7	33.3	33.3

* 調査票では、それぞれ以下のとおりである。

「常時雇用者」：常時雇用されている一般従業者

「臨時雇用者」：臨時雇用、パート、アルバイト、契約社員

「無職」：無職（学生、専業主婦・主夫を除く）

※網掛け■は最も多いもの

- 回答者の主な職業（表2.2.1）は、「常時雇用者」が最も多く32.0%、次いで、「無職」が18.2%、「臨時雇用者」が17.4%となっている。
- 性別にみると、女性は「専業主婦・主夫」（31.0%）が最も多く、次いで、「臨時雇用者」（24.9%）となっている。一方、男性は「常時雇用者」（46.7%）が最も多く、次いで、「無職」（24.8%）となっている。
- 年齢別にみると、30歳未満では「常時雇用者」、「学生」（いずれも36.4%）が最も多く、30歳代から50歳代までは「常時雇用者」が最も多く3～5割台を占めている。一方、60歳代以上では「無職」が最も多くなっている。
- 居住地域別にみると、全地域で「常時雇用者」が最も多くなっている。

(2) 主な通勤・通学地 (問5)

表 2.2.2 性別・年齢別・居住地域別 主な通勤・通学先

(単位: %)

		N (人)	吹 田 市	大 阪 市	豊 中 市	茨 木 市	摂 津 市	箕 面 市	高 槻 市	池 田 市	大 阪 其 他 府 内	兵 庫 県	京 都 府	其 他	は 通 勤 ・ 通 学 先 は な い	不 明 ・ 無 回 答
全 体		1,165	24.4	21.5	3.7	2.7	2.1	0.9	0.8	0.0	2.9	2.6	1.8	1.1	34.2	1.4
性 別	女性	638	28.1	16.0	3.9	1.6	1.3	1.4	0.5	0.0	1.3	1.6	0.9	0.3	42.2	1.1
	男性	520	20.0	28.3	3.5	4.0	2.9	0.4	1.2	0.0	5.0	3.8	2.9	2.1	24.6	1.3
	その他	2	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	不明・無回答	5	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	40.0
年 齢 別	30歳未満	118	28.0	21.2	8.5	5.1	2.5	0.8	0.0	0.0	5.1	5.9	8.5	3.4	10.2	0.8
	30歳代	157	21.0	35.0	4.5	2.5	3.8	1.3	1.3	0.0	2.5	2.5	1.9	0.0	22.3	1.3
	40歳代	231	29.4	29.9	2.2	3.9	3.0	0.9	2.2	0.0	4.8	5.2	0.4	2.2	16.0	0.0
	50歳代	204	31.4	28.4	6.4	3.9	2.0	1.5	0.0	0.0	2.9	2.9	2.5	1.5	16.2	0.5
	60歳代	192	27.1	17.2	3.1	1.0	0.5	0.5	1.0	0.0	2.6	0.5	1.0	0.5	44.3	0.5
	70歳以上	254	13.4	4.3	0.8	0.4	0.8	0.8	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	76.4	2.4
	不明・無回答	9	0.0	0.0	0.0	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2	55.6
居 住 地 域 別	J R以南	106	23.6	17.9	2.8	4.7	3.8	0.0	0.9	0.0	0.9	3.8	1.9	1.9	35.8	1.9
	片山・岸部	151	23.2	26.5	2.6	0.7	4.6	0.0	0.0	0.0	4.0	3.3	2.0	0.7	31.8	0.7
	豊津・江坂・南吹田	204	27.9	27.5	3.9	0.0	0.0	0.5	1.0	0.0	1.5	3.9	1.5	1.5	28.9	2.0
	千里山・佐井寺	200	29.0	21.5	2.0	1.5	0.5	1.0	0.5	0.0	4.0	2.5	1.5	2.5	32.5	1.0
	山田・千里丘	275	22.5	20.0	1.8	5.5	3.6	1.5	1.5	0.0	3.3	1.1	1.8	0.7	36.7	0.0
	千里N T・万博・阪大	214	21.0	17.8	8.9	3.3	0.9	1.9	0.5	0.0	3.3	1.9	2.3	0.0	37.9	0.5
	不明・無回答	15	13.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	0.0	0.0	40.0	40.0

※網掛け■は最も多いもの

- 回答者の主な通勤・通学地 (表2.2.2) は、「通勤・通学先はない」が最も多く34.2%、次いで、「吹田市」が24.4%、「大阪市」が21.5%となっている。
- 性別にみると、女性は「通勤・通学先はない」(42.2%) が最も多く、次いで、「吹田市」(28.1%) となっている。一方、男性は「大阪市」(28.3%) が最も多く、次いで、「通勤・通学先はない」(24.6%) となっている。
- 年齢別にみると、30歳未満、50歳代では「吹田市」、30歳代から40歳代では「大阪市」、60歳代以上では「通勤・通学先はない」が最も多くなっている。
- 居住地域別にみると、全地域で「通勤・通学先はない」が最も多く、次いで、片山・岸部地域では「大阪市」、それ以外の地域では「吹田市」となっている。

3. 世帯人員（問6）

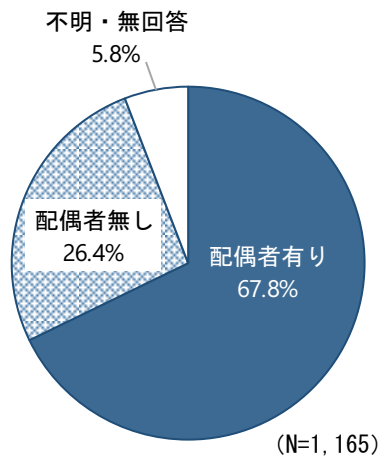


図 2.3.1 配偶者の有無

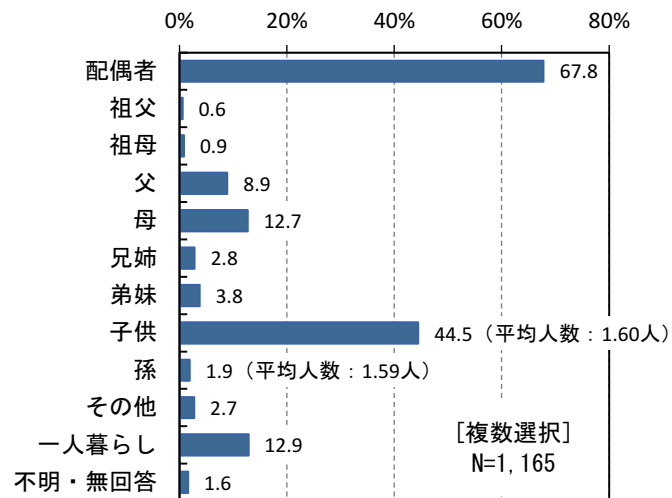


図 2.3.2 同居家族の続柄別の有無

- 回答者の配偶者の有無（図2.3.1）は、「配偶者有り」が67.8%、「配偶者無し」が26.4%となっている。
- 回答者の同居家族の続柄別の有無（図2.3.2）は、「配偶者」が最も多く67.8%、次いで、「子供」が44.5%となっている。また、「子供」の平均人数は1.60人、「孫」の平均人数は1.59人となっている。

表 2.3.1 居住地域別 同居家族の世帯人員

		(単位：%)									
		N (人)	一人暮らし	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人以上	無不回答・
全体		1,165	12.9	28.4	17.9	17.9	3.9	0.8	0.1	0.0	18.1
居住地域別	JR以南	106	15.1	32.1	14.2	14.2	1.9	0.9	0.9	0.0	20.8
	片山・岸部	151	15.2	23.2	15.9	21.9	4.0	0.0	0.0	0.0	19.9
	豊津・江坂・南吹田	204	22.5	25.0	18.6	13.7	4.4	1.5	0.0	0.0	14.2
	千里山・佐井寺	200	7.5	29.0	22.0	19.5	6.5	1.0	0.0	0.0	14.5
	山田・千里丘	275	7.6	27.3	19.3	22.2	2.9	1.1	0.0	0.0	19.6
	千里NT・万博・阪大	214	12.1	34.6	15.9	14.5	3.7	0.0	0.0	0.0	19.2
	不明・無回答	15	20.0	26.7	6.7	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0

※網掛け■は最も多いもの

- 回答者の世帯人員（問6の回答をもとに算定）（表2.3.1）は、「2人」が最も多く28.4%、次いで、「3人」、「4人」がいずれも17.9%、「一人暮らし」が12.9%となっている。
- 居住地域別にみると、全地域で「2人」が最も多くなっている。

4. 家族構成（問7）

（1）全体

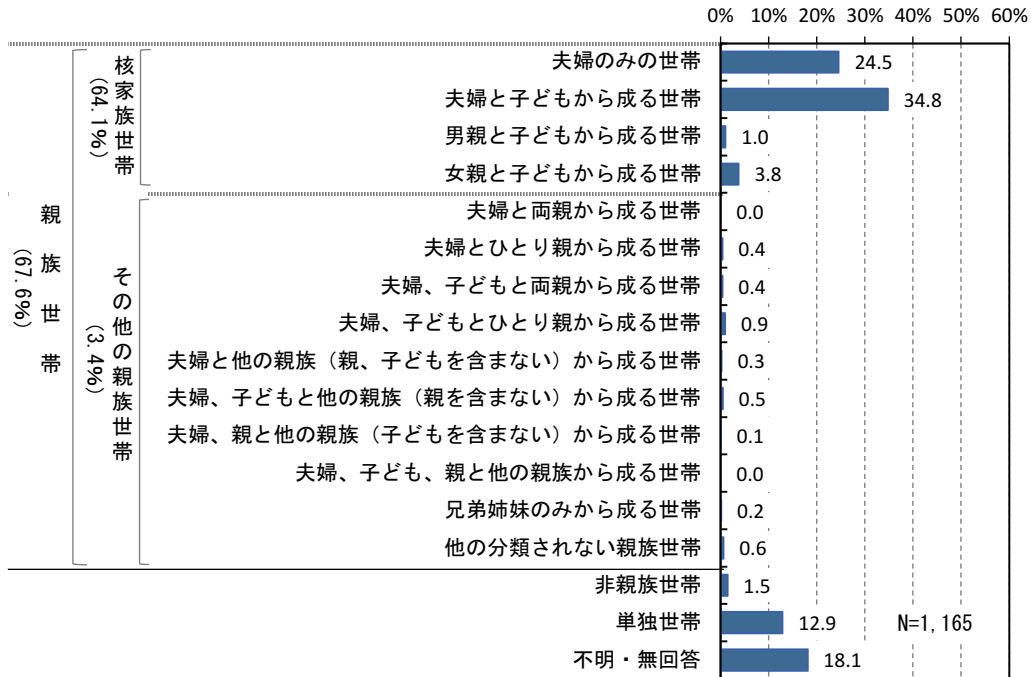


図 2.4.1 家族構成

表 2.4.1 居住地域別 家族構成

		(単位：%)																
居住地域別	N (人)	夫婦のみの世帯	夫婦と子どもから成る世帯	男親と子どもから成る世帯	女親と子どもから成る世帯	夫婦と両親から成る世帯	夫婦とひとり親から成る世帯	夫婦、子どもと両親から成る世帯	夫婦、子どもとひとり親から成る世帯	夫婦と他の親族（親、子どもを含まない）から成る世帯	夫婦、子どもと他の親族（親を含まない）から成る世帯	夫婦、親と他の親族（子どもを含まない）から成る世帯	夫婦、子ども、親と他の親族から成る世帯	兄弟姉妹のみから成る世帯	他の分類されない親族世帯	非親族世帯	単独世帯	不明・無回答
		全体	1,165	24.5	34.8	1.0	3.8	0.0	0.4	0.4	0.9	0.3	0.5	0.1	0.0	0.2	0.6	1.5
JR以南	106	24.5	23.6	2.8	6.6	0.0	0.0	0.0	0.9	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	2.8	15.1	20.8
片山・岸部	151	19.9	35.8	0.7	3.3	0.0	0.7	0.7	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	1.3	15.2	19.9
豊津・江坂・南吹田	204	21.6	31.9	1.0	1.0	0.0	1.0	1.0	1.0	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0	0.5	2.9	22.5	14.2
千里山・佐井寺	200	25.5	39.0	1.0	5.5	0.0	0.0	0.5	2.0	0.0	0.5	0.0	0.0	2.5	1.5	7.5	14.5	14.5
山田・千里丘	275	25.8	42.2	0.4	1.8	0.0	0.4	0.4	0.4	0.4	0.7	0.4	0.0	0.0	0.0	7.6	19.6	19.6
千里NT・万博・阪大	214	28.0	30.4	1.4	6.5	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	1.4	12.1	19.2
不明・無回答	15	26.7	13.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	40.0	40.0

※網掛け■は最も多いもの

- 回答者の家族構成（図2.4.1）は、「夫婦と子どもから成る世帯」が最も多く34.8%、次いで、「夫婦のみ世帯」が24.5%で、「核家族世帯」が全体の64.1%を占めている。
- 居住地域別（表2.4.1）にみると、JR以南地域では「夫婦のみの世帯」が、その他の地域では「夫婦と子どもから成る世帯」が最も多くなっている。

(2) 15歳未満・65歳以上の親族がいる世帯

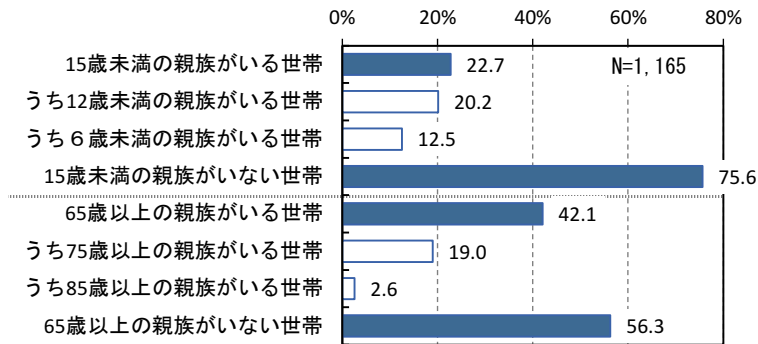


図 2.4.2 同居家族（回答者本人を含む）の15歳未満・65歳以上の有無

表 2.4.2 居住地域別 15歳未満・65歳以上の有無

(単位: %)

居住地域別	N (人)	親15歳未満の親族がいる世帯			親65歳以上の親族がいる世帯				
		うち12歳未満の親族がいる世帯	うち6歳未満の親族がいる世帯	15歳未満の親族がいない世帯	うち75歳以上の親族がいる世帯	うち85歳以上の親族がいる世帯	65歳以上の親族がいない世帯		
全体	1,165	22.7	20.2	12.5	75.6	42.1	19.0	2.6	56.3
JR以南	106	10.4	9.4	3.8	86.8	55.7	26.4	3.8	41.5
片山・岸部	151	19.9	17.9	8.6	78.1	40.4	16.6	1.3	57.6
豊津・江坂・南吹田	204	20.1	19.6	13.7	77.9	36.3	14.2	1.0	61.8
千里山・佐井寺	200	29.5	25.5	18.0	70.0	38.0	16.5	1.5	61.5
山田・千里丘	275	26.9	22.5	13.8	72.0	42.2	16.7	3.6	56.7
千里NT・万博・阪大	214	22.0	20.1	12.1	76.6	44.4	25.2	4.2	54.2
不明・無回答	15	20.0	13.3	6.7	66.7	60.0	40.0	0.0	26.7

- 「15歳未満の親族がいる世帯」(図2.4.2)は22.7%で、うち「12歳未満の親族がいる世帯」は20.2%、「うち6歳未満の親族がいる世帯」は12.5%となっている。
- 一方、「65歳以上の親族がいる世帯」は42.1%で、うち「75歳以上の親族がいる世帯」は19.0%、「うち85歳以上の親族がいる世帯」は2.6%となっている。
- 居住地域別(表2.4.2)にみると、「15歳未満の親族がいる世帯」は、JR以南地域以外の地域で約2~3割となっており、千里山・佐井寺地域、山田・千里丘地域、千里ニュータウン・万博・阪大地域の順で割合が高くなっている。また、「65歳以上の親族がいる世帯」は、JR以南地域(55.7%)が最も多く5割台、次いで、千里ニュータウン・万博・阪大地域(44.4%)が多くなっている。一方、豊津・江坂・南吹田地域(36.6%)が最も少なくなっている。

5. 世帯年収（問8）

表 2.5.1 居住地域別 世帯年収

(単位：%)

	N (人)	250万円未満	250万円未満	250万円未満	250万円未満	250万円未満	250万円以上	わからない	不明・無回答	平均値 (万円) *	
		14.5	29.3	18.5	12.8	9.3	4.1				
全体	1,165	14.5	29.3	18.5	12.8	9.3	4.1	8.2	3.3	614.3	
居住地域別	JR以南	106	23.6	30.2	17.0	6.6	10.4	2.8	4.7	4.7	536.5
	片山・岸部	151	15.2	34.4	17.9	13.9	7.9	1.3	6.6	2.6	555.7
	豊津・江坂・南吹田	204	16.7	30.9	18.1	13.2	9.3	2.0	8.3	1.5	572.7
	千里山・佐井寺	200	6.5	24.5	20.0	15.0	14.5	6.5	11.0	2.0	748.6
	山田・千里丘	275	13.5	29.8	18.2	16.0	7.3	3.3	9.8	2.2	602.8
	千里NT・万博・阪大	214	15.9	28.5	20.1	9.3	7.9	7.5	6.1	4.7	632.2
	不明・無回答	15	20.0	13.3	6.7	0.0	0.0	6.7	6.7	46.7	500.0

※網掛け■は最も多いもの

* 平均値は、「250万円未満」から順に125万円、375万円、625万円、875万円、1,250万円、1,750万円と仮定して算出したものである。

- 回答者の世帯年収（表2.5.1）は、「250～500万円未満」が最も多く29.3%、次いで、「500～750万円未満」が18.5%、「250万円未満」が14.5%と続いており、平均金額は614.3万円となっている。
- 居住地域別にみると、全地域で「250～500万円未満」が最も多くなっている。また、平均金額は千里山・佐井寺地域（748.6万円）が最も高く、逆にJR以南地域（536.5万円）が最も低くなっている。

6. 住宅の種類（問9）

表 2.6.1 性別・年齢別・居住地域別 住宅の種類

		(単位：%)											
	N (人)	持ち家 (一戸建て) *	持ち家 (マンション)	民間賃貸 (一戸建て)	民間賃貸 (集合住宅) *	公団・公社 (賃貸)	府営・市営 (賃貸)	社宅・寮	その他	不明・無回答	持家比率	一戸建て比率	
		全体	1,165	29.4	37.4	2.2	17.3	4.6	5.2	2.3	0.7	0.9	66.8
性別	女性	638	30.7	36.5	2.2	17.7	4.7	5.0	2.0	0.3	0.8	67.2	32.9
	男性	520	27.5	38.7	2.3	16.7	4.6	5.4	2.7	1.2	1.0	66.2	29.8
	その他	2	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0
	不明・無回答	5	40.0	40.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	80.0	40.0
年齢別	30歳未満	118	18.6	26.3	2.5	35.6	5.1	1.7	8.5	0.8	0.8	44.9	21.2
	30歳代	157	19.7	31.2	4.5	30.6	3.8	3.8	5.1	0.0	1.3	51.0	24.2
	40歳代	231	25.1	42.9	2.2	21.6	2.6	2.6	1.7	0.9	0.4	68.0	27.3
	50歳代	204	34.8	38.2	1.5	13.2	2.9	5.9	1.5	1.0	1.0	73.0	36.3
	60歳代	192	32.8	45.3	1.6	7.8	5.7	6.8	0.0	0.0	0.0	78.1	34.4
	70歳以上	254	37.4	34.6	2.0	7.1	7.5	8.3	0.8	1.2	1.2	72.0	39.4
	不明・無回答	9	22.2	44.4	0.0	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	66.7	22.2
居住地域別	J R以南	106	51.9	11.3	12.3	12.3	0.0	6.6	3.8	0.9	0.9	63.2	64.2
	片山・岸部	151	43.7	20.5	4.6	19.9	1.3	5.3	2.6	1.3	0.7	64.2	48.3
	豊津・江坂・南吹田	204	31.4	26.5	1.0	34.3	1.0	1.0	3.9	0.5	0.5	57.8	32.4
	千里山・佐井寺	200	30.0	39.0	0.5	24.0	3.5	0.5	1.0	0.5	1.0	69.0	30.5
	山田・千里丘	275	18.5	68.0	1.1	10.2	0.7	1.1	0.4	0.0	0.0	86.5	19.6
	千里N T・万博・阪大	214	19.2	33.6	0.0	4.7	18.2	18.2	3.3	1.4	1.4	52.8	19.2
	不明・無回答	15	33.3	13.3	0.0	20.0	13.3	0.0	6.7	0.0	13.3	46.7	33.3

※網掛け■は最も多いもの

* 調査票では、それぞれ以下のとおりである。

「持ち家（一戸建て）」：持ち家（一戸建て、タウンハウス）

「民間賃貸（集合住宅）」：民間賃貸（マンション、アパート、文化住宅）

- 回答者の住宅の種類（表2.6.1）は、「持ち家（マンション）」が最も多く37.4%、次いで、「持ち家（一戸建て）」が29.4%、「民間賃貸（集合住宅）」が17.3%となっている。
- 全体の持家比率は66.8%、一戸建て比率は31.6%となっている。
- 性別にみると、女性・男性ともに「持ち家（マンション）」が最も高く、次いで、「持ち家（一戸建て）」となっている。
- 年齢別にみると、30歳未満では「民間賃貸（集合住宅）」、30歳代から60歳代では「持ち家（マンション）」、70歳代以上では「持ち家（一戸建て）」が最も多くなっている。また、持家比率は、60歳代が最も高く78.1%、次いで、50歳代が73.0%、70歳以上が72.0%となっている。
- 居住地域別にみると、J R以南地域、片山・岸部地域は「持ち家（一戸建て）」、豊津・江坂・南吹田地域は「民間賃貸（集合住宅）」、千里山・佐井寺地域、山田・千里丘地域、千里ニュータウン・万博・阪大地域は「持ち家（マンション）」が最も多くなっている。持家比率は、山田・千里丘地域が最も高く86.5%、逆に、千里ニュータウン・万博・阪大地域が最も低く52.8%となっている。

7. 居住地域別特性

表 2.7.1 居住地域別町名分類

地 域 名	町 丁 名
J R以南 地域	朝日町、内本町、川岸町、川園町、寿町、幸町、昭和町、吹東町、末広町、清和園町、高城町、高浜町、中の島町、西御旅町、東御旅町、日の出町、平松町、南正雀、南清和園町、南高浜町、目俵町、元町
片山・岸部 地域	朝日が丘町、片山町、上山手町、岸部北、岸部新町、岸部中、岸部南、芝田町、天道町、出口町、西の庄町、原町、藤が丘町、山手町
豊津・江坂・南吹田 地域	泉町、江坂町 1～4 丁目、江の木町、金田町、垂水町、豊津町、広芝町、穂波町、南金田、南吹田、芳野町
千里山・佐井寺 地域	江坂町 5 丁目、春日、佐井寺、佐井寺南が丘、五月が丘北、五月が丘西、五月が丘東、五月が丘南、千里山霧が丘、千里山高塚、千里山竹園、千里山月が丘、千里山西、千里山虹が丘、千里山東、千里山星が丘、千里山松が丘、竹谷町、円山町
山田・千里丘 地域	青葉丘北、青葉丘南、樫切山、清水、尺谷、新芦屋上、新芦屋下、千里丘上、千里丘北、千里丘下、千里丘中、千里丘西、長野西、長野東、山田市場、山田北、山田西、山田東、山田南
千里ニュータウン・万博・阪大 地域	青山台、上山田、佐竹台、千里万博公園、高野台、竹見台、津雲台、藤白台、古江台、桃山台、山田丘

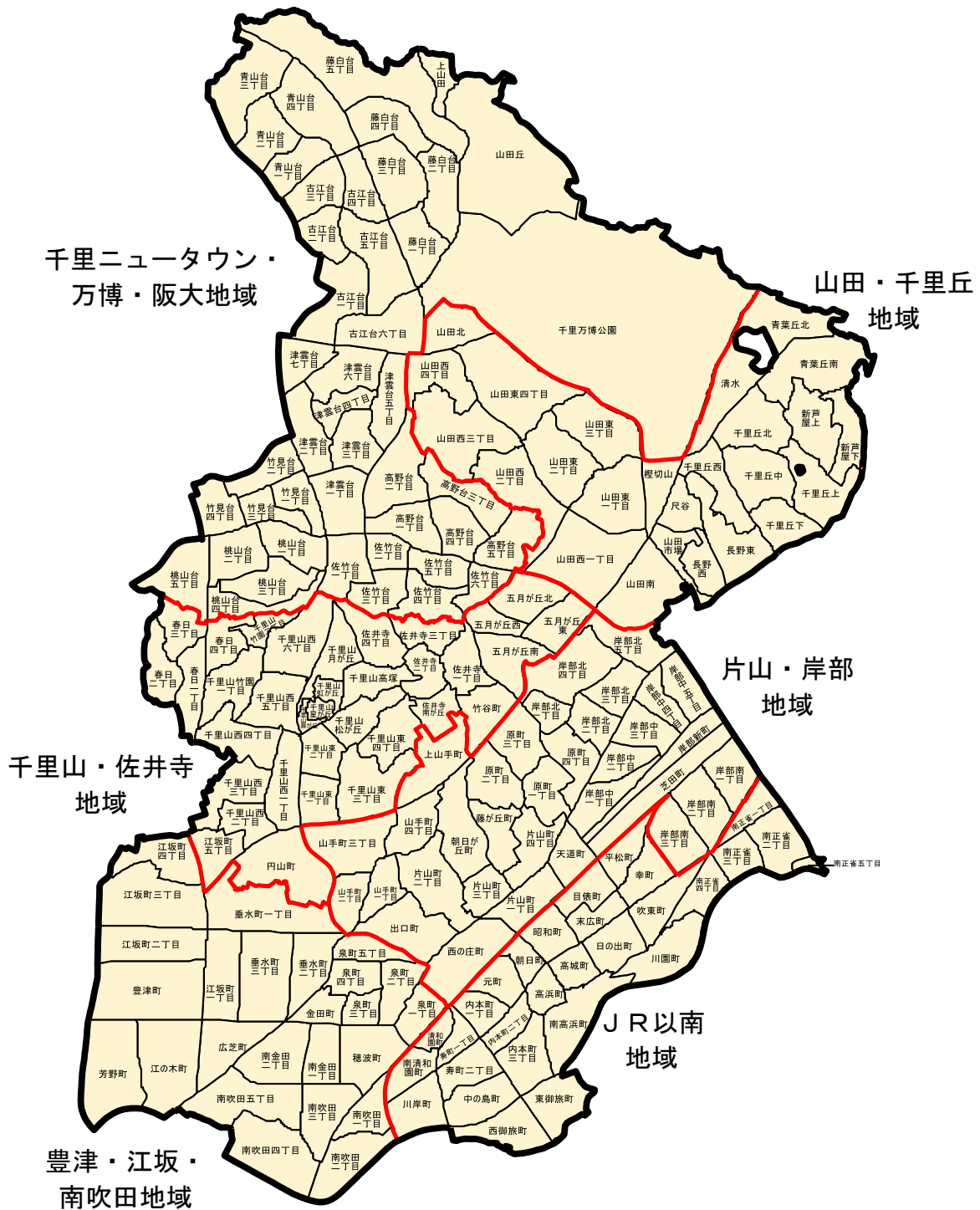


図 2.7.1 居住地域別町名分類図

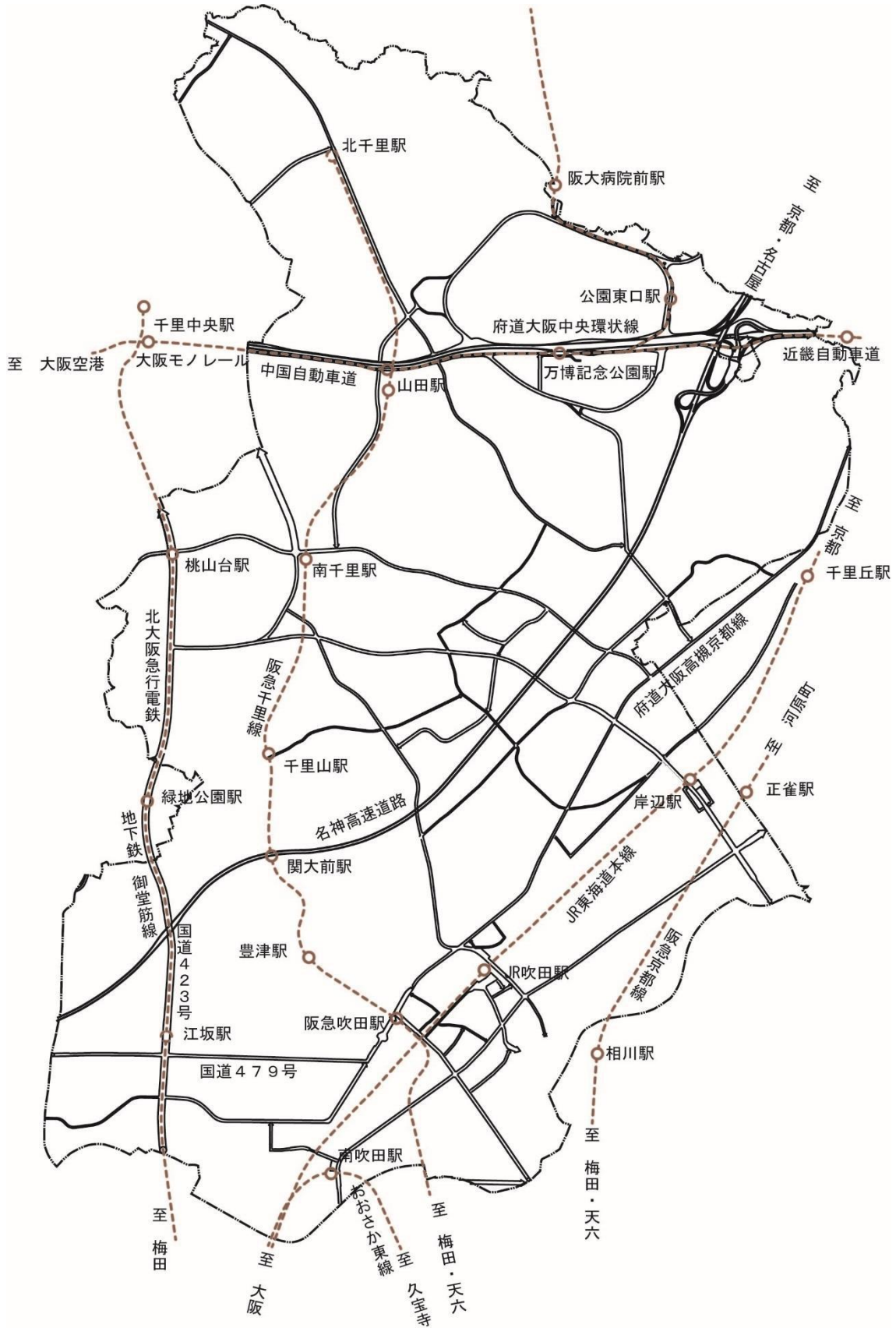


図 2.7.2 調査地域内路線図

表 2.7.2 居住地域別指標

(番号)		単位	J R以南 地域	片山・岸部 地域	豊津・江坂・南吹田 地域	千里山・佐井寺 地域	山田・千里丘 地域	千里ニュータウン・ 万博・阪大 地域	計
1	地域面積	ha	361.5	537.4	538.0	482.9	555.2	1,136.0	3,611.0
2	水面面積		26.1	5.3	11.6	1.7	3.5	17.0	65.2
3	社寺敷地・公開庭園面積		3.2	1.4	0.7	1.8	5.4	0	12.5
4	道路・鉄軌道敷面積		43.7	61.9	42.3	19.3	42.3	83.0	292.5
5	公園面積		10.1	16.1	17.8	4.5	14.4	263.7	326.6
6	文化・交流関係施設	箇所	3	3	4	1	4	13	28
7	子育て支援・社会福祉関係施設		16	26	15	16	26	26	125
8	社会教育関係施設		10	12	7	7	16	8	60
9	事業所		第一次産業	0	1	0	2	2	0
	第二次産業	200	154	567	100	160	84	1,265	
	第三次産業	1,363	1,192	3,971	1,222	1,234	1,274	10,256	
	合計	1,563	1,347	4,538	1,324	1,396	1,358	11,526	
10	従業員数	第一次産業	0	19	0	14	5	0	38
		第二次産業	3,138	1,471	7,775	538	1,126	541	14,589
		第三次産業	12,942	17,209	51,205	9,205	11,744	27,661	129,966
		合計	16,080	18,699	58,980	9,757	12,875	28,202	144,593
11	過去1年間(平成29年)の犯罪発生件数	件	377	510	802	326	480	311	2,806

(注) 1～4の面積は平成22年度(2010年度)「土地利用現況調査」(都市整備室)による。

5は平成25年度(2013年度)版「すいた市政概要」からの集計による。

5は広域公園・都市公園・緑地

6～8は平成26年(2014年)4月1日現在、市が管理・運営等を行なっている施設

6の文化・交流関係施設はコミュニティ・人権・勤労者関係施設

7の子育て支援・社会福祉関係施設は児童・障がい者・高齢福祉施設等

9、10の事業所数、従業員数は、平成28年(2016年)「経済センサスー活動調査」(総務省統計局)による。

11の過去1年(平成29年)間の犯罪発生件数は、「セーフティすいた」からの集計による。ただし犯罪件数は防犯支部別(分別不能分は除く)に集計しており、厳密に6つ居住地域と一致しない。

表 2.7.3 居住地域別特性（その1）

地域名	特性
JR以南 地域	<p>この地域は、安威川や神崎川を隔てて大阪市と接し、水運に恵まれていたことから、交通の要衝として発展し、市内でも早くから開けてきた地域です。</p> <p>吹田発祥の地といわれ、旧集落のまちなみや高浜神社などの由緒ある寺社など、歴史的な風情が地域内の各所に残っており、また、市内でも戸建住宅が多い地域となっています。吹田歴史文化まちづくりセンター（浜屋敷）や旧西尾家住宅（吹田文化創造交流館）を中心に、歴史・文化資源を活用したさまざまな取組が行われています。JR吹田駅付近には、商店街や商業施設などが立地しています。神崎川沿いには、製造業を中心とする大規模工場や、スポーツグラウンドのある中の島公園が立地しています。また、神崎川・安威川沿いは貴重なみどりと水辺の空間となっています。</p>
片山・岸部 地域	<p>この地域は、古来より丘陵の斜面と豊富で良質な粘土を用いて窯業が営まれ、平安京などの造営に使われた瓦の産地であったことが知られています。明治・大正時代には、ビール工場や国鉄吹田操車場が設けられ、当時の吹田を「ビールと操車場のまち」とイメージさせました。昭和に入ると、大阪高槻京都線（産業道路）の開通を機に、商店街が形成され、付近の丘陵部は住宅地として発展しました。</p> <p>吉志部神社、吉志部瓦窯跡など、数々の歴史的建築や文化財、史跡などが残されています。南西部の片山公園周辺には、総合福祉会館や吹田保健所などの公共施設が集積しているほか、大和大学の開学や商業施設の開業により、新たなにぎわいをみせています。東部には、大阪学院大学が立地しています。また、吹田操車場跡地では、国立循環器病研究センターを中心とした国際級の複合医療産業拠点の形成など、北大阪健康医療都市（健都）の整備が進められており、まちなみが大きく変わりつつあります。</p>
豊津・江坂・南吹田 地域	<p>この地域は、地下水が豊富で、垂水神社など水にゆかりのある歴史的資源が多く残っています。また、垂水南遺跡などの遺跡からは、古代より広域的に交流があったことがうかがえます。千里ニュータウンの開発などを機に、新御堂筋や地下鉄御堂筋線の延伸整備が進むとともに、江坂駅周辺などの土地区画整理事業により道路や公園などが整備されました。</p> <p>現在は、江坂駅を中心に北大阪の都心的なまちとして発展しており、卸売・小売業などの店舗や企業が集積するほか、民間の賃貸マンションが多く立地しています。一方、その周辺には旧集落の面影を残すまちなみ、北部には閑静な住宅地が形成されています。東部には市役所や文化会館（メイシアター）、南部の神崎川沿いには大規模な工場が集積しています。南部では、JRおおさか東線の南吹田駅の設置にあわせて、駅前広場や都市計画道路などの整備が進められています。また、高川や糸田川沿いは、貴重なみどりと水辺の空間となっています。</p>

表 2.7.4 居住地域別特性（その2）

地域名	特性
千里山・佐井寺 地域	<p>この地域は、古くから千里丘陵の尾根筋や谷筋に集落が形成され、歴史的なまちなみ、佐井寺伊射奈岐神社や佐井寺、春日神社など歴史的資源が数多く残されています。</p> <p>中央部の千里山地区は、大正末期の北大阪電気鉄道（現阪急電鉄）の開通に伴う開発により、閑静な住宅街として発展してきました。近年、千里山駅東側は再整備され、千里山コミュニティセンターや商業施設が開業しました。また、関西大学の周辺には、学生向けのにぎわいのある商業地が形成されてきました。東部の佐井寺地区では、古くからの趣を残す市街地に加えて、土地区画整理事業により道路や公園などが整備され、新しい住宅が多く建設されました。</p>
山田・千里丘 地域	<p>この地域は、山田川や旧小野原街道沿いに古くから大きな集落が形成されており、旧家や由緒ある紫雲寺、圓照寺、山田伊射奈岐神社、太鼓神輿や権六おどりなど、有形、無形の歴史的資源が数多く残されています。</p> <p>西部の山田西地区では、マンションや住宅団地の建設により急速に市街化が進みました。地域活動が盛んで、ヒメボタルの保存活動なども行われています。山田駅周辺には、商業施設や、子育て青少年拠点夢つながり未来館（ゆいぴあ）が立地しています。東部の千里丘地区では企業の厚生施設などが多く立地していましたが、住宅地へ変化している場所が多くみられます。大規模マンションの開発なども進められ、多くのファミリー世帯の転入により児童数が増加し、新たに千里丘北小学校が開校しました。</p>
千里ニュータウン・万博・阪大 地域	<p>この地域は、竹林と雑木林の広がる丘陵地でしたが、昭和 30 年代から約 10 年にわたる大規模なニュータウン開発や、大阪大学の移転、日本万国博覧会の開催を経て、現在では、みどり豊かで計画的に整備されたまちなみが広がっています。</p> <p>千里ニュータウンは、共同住宅と戸建住宅による住宅地、地区センターや近隣センターの商業地をはじめ、道路や公園などの公共空間が計画的に整備され、落ち着いた住宅地として成熟したまちとなっています。ニュータウン建設から半世紀以上が経過し、老朽化した公的住宅の集約建替が進むとともに、余剰地へのマンション開発が行われています。北部から中部にかけては、大阪大学や千里金蘭大学、理化学研究所が立地しています。万博記念公園には、国立民族学博物館など文化・学術・研究施設や、さまざまなスポーツ・レクリエーション施設などが立地するほか、近年、市立吹田サッカースタジアムや大規模な商業施設が開業し、市内外から多くの人を訪れるにぎわいのあるエリアとなっています。</p>